

令和5年度 決算の概要

令和5年度の一般会計、4つの特別会計および下水道事業会計の決算がまとまり、町議会9月定例会で認定されました。決算は、家庭でいう年間の家計簿にあたります。皆様から納めていただいた税金や、国・県からの補助金などがどれくらいあって、どのように使われたのかをまとめたものです。今月号は、その概要をお知らせします。

令和5年度は、第2次愛荘町総合計画に基づき、限られた経営資源の有効活用と成果の向上を重視した事業に取り組むため、総合計画における重点戦略プロジェクトの3つの柱「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」を軸に、コロナ禍等を契機とした社会の転換期において本町が注力すべきテーマを導き、重点的に施策

歳入の状況

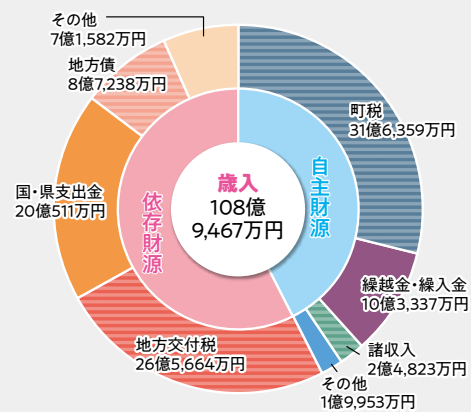
一般会計の歳入総額は、108億9,467万円で、前年度と比較して7億4,653万円、6.4%の減となりました。

その内訳は、町が自らの力で収入できるお金（自主財源）は歳入全体の42.6%で、残りの57.4%は国や県からの交付金や補助金、町債（借入金）といった依存財源に頼っている状況です。

自主財源の柱である町税収入は、31億6,359万円（総額の29.0%）で、個人所得の増加による個人町民税増収等により、前年度比1.5%の増となりました。収納率は97.9%となり、未徴収額については税の公平性の観点から、今後も引き続き町税収入をしっかりと確保していく必要があり、町税等徴収対策本部や県と共同した徴収事務により徴収対策を進めます。

依存財源のうち、国庫支出金は、愛知中学校等大規模増改築事業の完了による学校施設環境改善交付金の減、新型コロナウイルスワクチン接種事業負担金・体制確保事業補助金の減により、前年度比29.2%減となりました。

町債は、庁舎等リニューアル事業による一般事業債、歌詠橋の工事に係る豊郷町建設事業負担金の財源である緊急自然災害防止対策事業債等で8億7,238万円（総額の8.0%）を発行しました。



を推進したことや、物価高騰に対する施策を実施した結果、一般会計と特別会計を合わせた決算総額は、歳入が145億6,911万円、歳出が142億6,811万円で、歳入から歳出を差し引いた収支は3億100万円となり、次年度への繰越事業に充てる財源7,025万円を差し引いた実質収支は、2億3,075万円となりました。

地域の実情やニーズに応じて地方公共団体の判断で自由に使える余裕がどのくらいあるかという、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、令和4年度決算は93.1%でしたが、令和5年度決算においては、2.3%増加の95.4%となりました。これは100万円のうち95万4千円の使い道が決まっていて、4万6千円が自由に使えるお金ということになります。

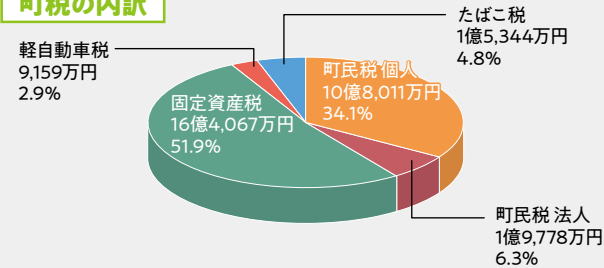
今後も、第2次愛荘町行政改革大綱〔前期〕に基づいた財政健全化に継続的に取り組むとともに、第2次愛荘町総合計画に掲げる重点戦略「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」を積極的に推進していく必要があります。

職員一人ひとりが経営感覚とコスト意識を持ち、行財政改革に主体的に取り組んでまいります。

町税収入

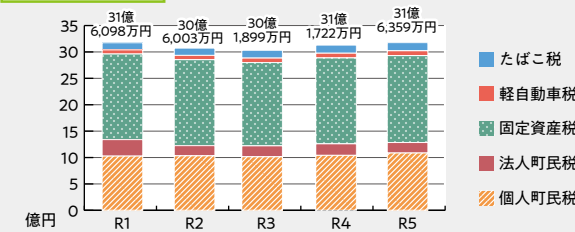
令和5年度の町税収入は、前年度に比べ101.5%、31億6,359万円となりました。個人町民税は、個人所得の増加により10億8,011万円、前年度に比べ104.3%となり、法人町民税は1億9,778万円、前年度に比べ90.8%となりました。軽自動車税は、保有台数の増により9,159万円、前年度に比べ103.7%、固定資産税は、16億4,067万円、前年度に比べ101.2%となりました。

町税の内訳



●町民一人あたり町税負担額（一般会計） 15万90円
（行政区別人口世帯集計表（住民課）より 令和6年3月31日現在人口21,078人）
<町税収入額 3,163,593,757円 ÷ 21,078人 ÷ 150,090円>

町税の推移

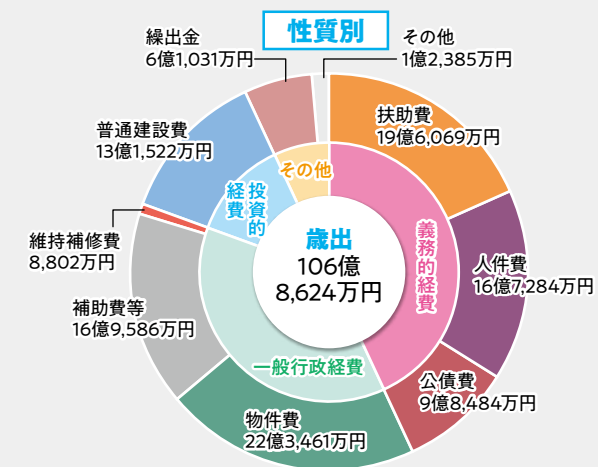
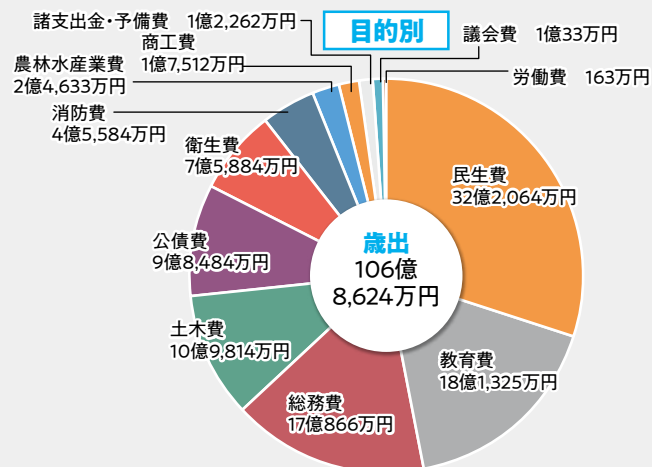


歳出の状況

一般会計の歳出総額は、106億8,624万円で、前年度と比較して3億5,483万円、3.2%の減となりました。

目的別構成比では、民生費が全体の約3割（30.1%）を占めており、教育費（17.0%）、総務費（16.0%）がこれに続いています。前年度比増減率では、総務費、諸支出金、議会費の順に大きく、減少率では、災害復旧費、教育費、商工費の順で大きくなりました。

性質別では、前年度に比べ、義務的経費は扶助費が国の住民税非課税世帯給付金給付事業等の増、人件費が人事院勧告による給料等の増、公債費が臨時財政対策債等の償還金の増により増となりました。また、一般行政経費は物件費が物価高騰の影響により増、維持補修費が公共施設の修繕等の増により増となりました。建設事業等の投資的経費は、愛知中学校等大規模増改築事業の完了により35.9%減となりました。その他の経費については、積立金が減債基金積立金の増により、32.8%増となりました。



自由に使えるお金はどれくらい？

【経常収支比率】

経常収支比率とは財政の健全性を示す指標で、税金など経常的な収入のうちどれだけを人件費や扶助費のような経常的な支出に使ったかを示すものです。言い換えれば自由に使えるお金の度合い、つまり、財政の「ゆとり」を示す指標です。

家計に例えると…

毎月決まって入ってくる給料のうち、食費・光熱費・ローンの返済など必ず支払う費用に、どれくらいのお金を使っているかを指標で示し、弾力性を見ようというものです。比率の上昇は、家庭で自由に使えるお金が少なくなることを意味します。

愛荘町の経常収支比率は、平成25年度以降に年々高くなり、平成29年度決算では98.4%に達し、全国平均92.8%と比べて高い数値となりました。

経常収支比率が100%を超えると各年度に収入するお金では足りず、起債（借金）や基金（貯金）の取り崩しなどの臨時的な収入に頼らざるを得ない状況となります。

令和5年度は物価高騰の影響により、95.4%となり、平成29年度の98.4%に次いで高い数値となりました。

今後も健全な財政運営を維持していくためには、さらなる収入の確保に努めるとともに、歳入に見合う歳出改革を行っていく必要があります。

